

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|---------------------------|---|--|---|----|------|--------|---|------|------|-------|---|-----|-----|--------------|---|-----|-----|--------------|---|----|----|--------------|---|----|----|
| オホーツク社会福祉専門学校 | 平成10年3月24日 | 榎 邦雄 | 〒090-0871 北海道北見市常盤町3丁目14 (電話) 0157-24-1560 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人栗原学園 | 昭和44年3月31日 | 柏尾典秀 | 〒090-0871北海道北見市常盤町3丁目14 (電話) 0157-24-1560 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育・社会福祉 | 教育社会福祉専門課程 | 介護福祉科 | 平成6年文部科学省告示第84号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 本学園には介護の他、「幼児教育」「歯科衛生」「情報処理」などの科がある。高齢者や障がいをもたれた方の口腔ケアの手法やパソコン操作の指導には、専門とする学科の教員から直接指導が受けられることで実践的能力を高めることができる。また、1年次から就職対策や国家試験対策にも力を入れ、就職率・国家試験合格率とも100%を目指す。地域の福祉を支え、何事においても率先して考え、行動し、即戦力として活躍できる介護福祉士育成を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成26年3月31日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の完了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 昼間 | 2167時間 | 771時間 | 910時間 | 450時間 | 0 | 36時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 80人 | 37人 | 5人 | 4人 | 15人 | 19人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日 | 成績評価 | | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目履修後にシラバスに定められた評価基準に則り成績を算出する。試験などの評価は下記の通りとする。 優:80点以上 良:60～79点 可:51～59点、不可:50点以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日～ ■夏季:7月20日～8月19日 ■冬季:12月21日～1月20日 ■学年末:3月12日～3月31日 | 卒業・進級条件 | | 出席時数が授業時数の3分の2(但し、介護実習については5分の4)に達しない者は、その科目において評価を受けることができない。卒業時には介護福祉士試験に相当する卒業認定試験を行う。進級年次は以上を合格とし進級を認める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な個人面接、家庭への文書連絡及び家庭訪問等 | 課外活動 | | ■課外活動の種類 施設等から依頼のあるボランティア ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) 介護施設 病院 障がい者施設等 ■就職指導内容 履歴書作成個別指導 個人面接練習 集団面接練習 ジョブカフェ講師による面接セミナー受講 小論文指導 ■卒業者数 17 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (令和5年度卒業生に関する 令和6年5月1日時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>②</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>社会人常備マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>社会人常備マナー検定2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>社会人常備マナー検定1級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 介護福祉士 | ② | 16人 | 16人 | 社会人常備マナー検定3級 | ③ | 17人 | 12人 | 社会人常備マナー検定2級 | ③ | 2人 | 0人 | 社会人常備マナー検定1級 | ③ | 1人 | 1人 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 介護福祉士 | ② | 16人 | 16人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会人常備マナー検定3級 | ③ | 17人 | 12人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会人常備マナー検定2級 | ③ | 2人 | 0人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会人常備マナー検定1級 | ③ | 1人 | 1人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 1名 令和5年4月1日時点において、在学者38名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者37名(令和6年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 学生生活不適應・修学意欲低下 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談 保護者面談 家庭訪問の実施等 | | ■中退率 3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 「栗原太郎・栗原寛隆・藤田礼三基金」卒業後5年間で授業料、施設費、実習費を返還 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の利用は無し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://kurihara.ac.jp | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
「地育地活」地元で育ち地元で活躍する人材の育成を掲げ、深い愛情をこめて人と接し仕事に臨むための知識や技術を身に付け、強い精神力を備え、自ら進んで誠心誠意汗をかきながら行動できる人材をめざし、そのためには企業との連携を密に、学校と企業との役割分担を明確にし、実習、講演などで新たに必要となる知識技術技能等を十分に把握、分析し、今後の授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行う

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
教育課程編成委員会の討議事項を受け、各学科にて検討したものを学園学科長会議にて討議し、最終的に学園経営会議にて討議し、より実践的な教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和6年10月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|--------------------------------------|------------------------------|----|
| 棧 邦雄 | 学校法人栗原学園学園長 理事 オホーツク社会福祉専門学校 校長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 畠山 友子 | オホーツク社会福祉専門学校 介護福祉科 学科長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 斉藤 茜 | オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科 学科長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 田村 智美 | オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科 学科長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 松浦 信一 | 医療法人社団松浦歯科医院院長 北見摂食嚥下ケア研究会会長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | ① |
| 中野 武房 | 学校カウンセリング研究会会長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | ② |
| 高橋 正明 | 社会福祉法人恵和福祉会 介護老人保健施設 アメニティ美幌 副施設長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | ③ |
| 岡田 直美 | 学校法人北見明和学園 認定こども園 北見くろみ幼稚園 園長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | ① |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回(6月、2月)
(開催日時(実績))
第1回令和6年6月27日 18:00～19:00
第2回令和7年2月
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
信頼関係はコミュニケーションを図ることでお互いに意見を言い合えるため、その点に関しては日々気をつけて取り組んでいるのご意見をいただく。何かのスキルを学ぶよりも、自身の中の問いを見つけて答えを作っていく方が効果があると考え導入しているのご意見もあり、メンタルヘルスの授業を先生方へもぜひお勧めしたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
専門的知識、技能、倫理観、価値観、自己覚知の方法などを習得することは実践的に学習することによって獲得される。実践的な学習の場は実習であり、実習においてそれまでの学内学習の成果が確認され、各教科内容が統合され、学生の中に定着していくことが期待される。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
担当利用者を選定していただき、実際に利用者の課題を明確にするためのアセスメント、介護計画の作成、実施、評価、修正といった介護過程を展開。週1回実習先に巡回し、指導者とともに、実習実施状況や実習計画の進捗状況などを確認。

(3)具体的な連携の例

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-------|--|--|
| 介護実習Ⅰ | 慣れ親しんだ地域で暮らす高齢者や障がいのある人の事実を知り、そのうえで、そこでの生活を少しでも長く継続していくために利用している、多様な施設や事業所等の機能や役割について知り、個々の生活リズムや個性を理解する観点から、さまざまな生活の場において個別ケアを理解する。また、通所系サービスなどの各在宅サービス、またグループホームや施設を利用する利用者やその家族と人間関係を形成しながら、コミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 | 医療法人社団久仁会介護老人保健施設 いきいき 社会福祉法人北見北尽会 介護老人保健施設 緑風 株式会社ツクイ 社会福祉法人北海道仕愛会 老人デイサービス 憩い 医療法人オホーツク勤労者医療協会 勤医協デイサービスくわの木 勤医協デイサービスセンター 社会福祉法人北見慈恵会グループホームゆうぼたん園 社会福祉法人北見睦会グループホームかかやきの里むつみ 有限会社 エーデルワイス他55施設 |
| 介護実習Ⅱ | 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするためのアセスメント、介護計画の作成、実施、評価、修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。 | 社会福祉法人治恵会特別養護老人ホームくつろぎ 社会福祉法人北海道仕愛会特別養護老人ホーム光の苑 社会福祉法人めぐみ会特別養護老人ホーム北寿園 社会福祉法人きたの愛光会特別養護老人ホームこもれびの里 社会福祉法人北見慈恵会複合福祉施設ゆうゆう 医療法人社団煌生会介護老人保健施設さくら 他28施設 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修を企業等との連携のもと定期的に組織的な研修の機会を設ける。また、介護分野教授教員は社会福祉士及び介護福祉士施行令第4条2項規定により介護教員講習会受講、医療的ケア教授教員は医療的ケア教員講習会の修了が義務付けられており研修に当たっては職務の一環として参加している。

(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
介護教員講習会オンラインにて受講(8月19日～21日)
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名「DX化を成功させるために必要なこと」(連携企業等:株式会社三和システムサービス)
期間:令和6年8月16日(金)

(3)研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
介護教員講習会受講
②指導力の修得・向上のための研修等
DX化、学生のメンタル面ケアなどを含めた研修を、商社協力の元受講 年2～3回

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動及び学校の運営の状況について、自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための対策を講じる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (1) 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | (2) 学校運営 |
| (3) 教育活動 | (3) 教育活動 |
| (4) 学修成果 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (5) 学生支援 |
| (6) 教育環境 | (6) 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7) 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | (8) 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | (9) 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | なし |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育環境について修繕が必要である。快適に学ぶ環境を考慮すると特に冷暖房について修繕が急がれる部分と考える。Wi-Fi環境が整備されてきているが、通信環境が不安定などの不具合が生じているなどの点についても改善が必要である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|---------|--------------------------------------|------------------------------|-------------|
| 棧 邦雄 | 学校法人栗原学園学園長 理事 オホーツク社会福祉専門学校 校長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 畠山 友子 | オホーツク社会福祉専門学校 介護福祉科 学科長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 斉藤 茜 | オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科 学科長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 田村 智美 | オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科 学科長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | |
| 中野 武房 | 学校カウンセリング研究会会長 令和元年度函館大谷短期大学客員教授 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | 有識者 |
| 松浦 信一 | 医療法人社団松浦歯科医院院長 北見摂食嚥下ケア研究会会長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | 有識者 実習施設 |
| 高橋 正明 | 社会福祉法人恵和福祉会 介護老人保健施設 アメニティ美幌 副施設長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | 実習施設 |
| 岡田 直美 | 学校法人北見明和学園 認定こども園 北見くろみ幼稚園 園長 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | 実習施設 |
| 近藤 千鶴 | (株)ベストミント代表取締役社長 学)栗原学園同窓生 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | 同窓生 企業役員 |
| 小野寺 栄利子 | オホーツク社会福祉専門学校 父母協力会 | 令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(任期2年) | PTA |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 時期 10月1日

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://kurihara.ac.jp> ⇒学校法人栗原学園ブログ⇒記事カテゴリ⇒栗原学園本部

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って学校案内・募集要項等の印刷物、ホームページにて情報提供を行っている。学校関係者評価委員会で確認後、10月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | ・学校案内 交通アクセス、 |
| (2) 各学科等の教育 | ・学科案内 |
| (3) 教職員 | ・事業報告書(抜粋) |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | ・就職・進学案内 就職サポート、就職先一覧 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | ・事業報告書(抜粋) |
| (6) 学生の生活支援 | ・入学案内 各種サポート制度 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | ・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度 |
| (8) 学校の財務 | ・財務計算に関する書類 |
| (9) 学校評価 | ・自己点検評価報告書 |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://kurihara.ac.jp> ⇒学校法人栗原学園ブログ⇒記事カテゴリ⇒栗原学園本部

授業科目等の概要

| (教育社会福祉専門課程介護福祉士科) | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|------|------|-------|--|---------|------|-----------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 1 | ○ | | 介護実習Ⅰ | I. 慣れ親しんだ地域で暮らす高齢者や障がいのある人の事実を知り、そのうえで、そこの生活を少しでも長く継続していくために利用している、多様な施設や事業所等の機能や役割について知り、個々の生活リズムや個性を理解する観点から、さまざまな生活の場において個別ケアを理解する。また、通所系サービスなどの各在宅サービス、またグループホームや施設を利用する利用者やその家族と人間関係を形成しながら、コミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 | 1 | 200 | 10 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 2 | ○ | | 介護実習Ⅱ | II 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするためのアセスメント、介護計画の作成、実施、評価、修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。 | 2 | 250 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 合計 | | | | | 1科目 | | 450単位時間 (10単位) | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---|-----------|-------|
| 出席時数が授業時数の3分の2（但し、介護実習については5分の4）に達しない者は、その科目において評価を受けることができない。卒業時には介護福祉士試験に相当する卒業認定試験を行う。進級年次は可以上を合格とし進級を認める。 | 1 学年の学期区分 | 2 期 |
| | 1 学期の授業期間 | 3 0 週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。